

①

# 政務活動費実績報告書 (政策ミライ) 中谷信二

期日 令和6年7月9日～7月11日

視察先 三重県伊賀市 (7月10日) 三重県桑名市 (7月10日) 大阪府箕面市 (7月11日)

目的 伊賀市が取り組んでいる関係人口の創出・拡大について、又、桑名市の公民連携の取り組みについて調査研究し、八女市に生かせるよう、又、箕面市では箕面市新市立病院の再整備が具体的に始まっている為、公立八女総合病院再整備の参考とするため調査研究を行う目的。

同行者 高松信広氏、栗山徹雄氏、原田英雄氏  
(政策ミライ)

## 視察先別概要

伊賀市... 人口 85,225人 (R6.5.31日現在)  
世帯数 40,553世帯  
面積 558.23km<sup>2</sup>

対応者 西口市議会議長、森森議会議務局室幹、  
筒森地域創生課長、植田係長、内山氏

テーマ IGABITO育成事業、関係人口創出事業について

デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、地域再生計画に取り組んでいる、転出若者が将来的にUターンを志向し、市内に定住する必要性から伊賀若者育成事業に取り組んだ。  
伊賀若者会議を核としてIGABITO育成プラットフォーム形成事業としてIGABITO育成事業補助金による活動支援を行っている。  
伊賀若者会議は令和4年から市政参加活動を導入したが、地域の担い手としての意識が高まり、効果が見えてきている。

伊賀市、ふじとサポーター制度は伊賀市の魅力を全国にPRし、観光情報発信、特産物の販路拡大、企業誘致等の推進  
 するために、支援、協力をもらっている人で現在86人が登録されている

## 所感

転出する若者が将来Uターンで定住を志願する取り組みは大変重要  
 あるが、本市がこれまでだけのUターン定住者の魅力があるか、環境と  
 整った受け皿が生まれるのか、経済面、教育面など色々な面において  
 研究していくなければならぬ。  
 伊賀市も国際人口が明確になっていかなければ、定住人口  
 ではなく、交流人口でもよい。地域で多様に関わる人々を指しているか  
 ふらふらと網を通過した人々の明確にターゲットと位置づけられている  
 LINE公式アカウントへの友だち登録については本市も採用を検討  
 したいと思う。  
 又、伊賀市在住の外国人は人口の約7%、6,003人の定住人口が  
 あるが、本市は1.5%と低い。本市でも外国人定住に向けては  
 努力が必要かあると思う。

## 提案先別概要

桑名市…人口138,410人、世帯数61,961世帯 (R6.6.30現在)  
 面積136.65km<sup>2</sup>

対応者 近藤政策創造課長 日紫喜係長 暮石主事  
 竹口主任 (中氏議会事務局)

テーマ 公民連携の窓口「コラボラボ桑名」の取組  
 について

公民連携「コラボラボ桑名」は人口減少、公共施設の老朽化  
 や戦後継承等再構を目的で取組われている。  
 平成27年に公民連携専門部署を設立し、ネーミングライツ提案  
 制度の創設から民間提案窓口「コラボラボ桑名」が開設

その後郵便局の行政窓口サービス 民間における市役所駐車場運営など色々な取り組みが行われている。

小笠原成功事例として情報交流施設「又木茶屋」の民間事業者による健全運営により市政を助けており駐車場の赤字運営も民間事業者に移譲し維持管理者が不足に陥った。

大笠原成功例としては公共施設の利活用について提案を募集し中には肉鎖中の汚水処理場は解体を条件に売却し市にとって大笠原利益となっている。他に未利用地をコンビニ用地として貸付たり出合いの互換に着手しマツダがアグリ「パークス」との連携もしている。公民連携を成功させる為の心構え5条件がある

- ① 固定観にとらわれない。
- ② 民間ノウハウを最大限に生かす。
- ③ 提案対話は断わらない。
- ④ 提案事業者を大切にす。
- ⑤ 行政と民間の壁を壊す。

## 所感

公民連携の取り組みは全国各自治体で見られるが、理由としては財政の悪化、人口減少への不安等が上げられると思うが、桑名市は財政健全化に向けた対策から実行へのスピードが早くて感服させられた。

相談される民間業者が行政の窓口が整備されているほどスピードが増えたと窓口部署を設置する必要性もあると思う。

公民連携の取り組みにより桑名市の経常収支比率が平成26年99.7%から令和3年には85.8%と改善されている。基金増額等の財政健全化も進んでいる。本市においても公民連携は早急に検討すべきと思う。

## 視察先別概要

箕面市... 人口139228人 世帯数63767世帯 (2016.6.30現在)  
面積47.90 km<sup>2</sup>

対応者 三好氏(箕面市立病院整備室長)  
小西氏(社会事務局)

## テーマ 箕面市新市立病院の整備方針について

40年経過の老朽化した市立病院を新駅「箕面般場阪大駅」の  
絶好地に移転新築を令和10年中に整備計画されている。  
新病院は救急医療、小児医療、新興感染症対応医療と掲げて  
新病院の役割を明確にしている。  
医療法人協和会による指定管理制度の導入。  
病床数は両者で390と決定している。指定管理者との契約は  
20年以内、医師は現状の大阪大医学部が中心。  
充実した医療を行うには390の病床は最低限度。医師、看護婦  
等の確保も300床未満では難しく1836の事業。  
新病院の建設費は協和会との再編統合により市負担17.5%、  
指定管理者は42.5%、残り40%は国の交付金とか、総額662億円  
の内、箕面市負担は98億円という驚異の軽負担金である。  
民間業者による指定管理制度導入とすると職員の身分不安が  
あり思いますが、一定期間保証という事で組合ともスムーズに解決でき  
てほしい。

## 所感

最も関心があった市立病院の指定管理者制度である。  
見て聞いてみると、市と比べて数に劣る医療環境にある。  
この環境であるが、官利を目的とした医療・民間事業者も数多く  
関心を持つのは? 300床未満の病床は医師確保が難しいと  
言われるが、フリー（たとえ指定管理制度にもついても）  
公立（女総合病院）には、構成自治体（女中、広川町、飯盛市）の  
問題も無い。何となくも欠陥大学の元銭が、いかに付るのか。  
欠陥大学次第ではないだろうか。実現に努力は付ければいい。